



2020年2月12日
第102号

JR 東労組 Yokohama

JR東労組横浜地本

発行人 助川一実
編集 情宣担当
ホームページ



<http://www.jreu-yokohama1.jp/>

横地申第26号

「南武線運輸関係基地再編成について」申し入れをしました!

横地申 第26号
2020年 2月 7日

東日本旅客鉄道株式会社 横浜支社
横浜支社長 廣川隆 殿

東日本旅客鉄道労働組合
横浜地方本部
執行委員長 助川一実

「南武線運輸関係基地再編成について」の申し入れ

横浜地本は、2019年8月26日「南武線運輸関係基地再編成について」の提案を受け同年9月13日、横地申第8号にて「南武線運輸関係基地再編成について」解明申し入れを行い、施策の目的や課題など46項目を団体交渉で議論しました。

横浜支社は提案時において「これまで運輸区を発足させてきており、今まで以上に良い運輸区にしていく」「鎌倉車両センター中原支所の業務内容はこれまでと同じである」など回答がありました。

一方で、解明交渉の議論において「現時点では決まっていない」との回答がほとんどであり、横浜支社が「南武線運輸関係基地再編成について」の施策を進める姿勢が見えないことに組合員は不安の声を上げています。

解明交渉から4か月が経過し、川崎運輸区発足まで一か月程となり、武蔵中原駅に隣接する庁舎の工事も順調に進められている様子を見ている組合員は、新たな庁舎が「快適で働きやすい環境」の職場であることをとても期待しています。

従いまして、今回の「南武線運輸関係基地再編成について」多くの組合員の不安の声を解消するために、以下の通りに申し入れを行いますので、会社の誠意ある回答と真摯な議論を求めます。

記

【共通】

- 1、移転に関するスケジュールを示すこと。
- 2、移転に伴うロッカー整理等は、勤務として扱うこと。
- 3、関係社員に対して庁舎内のレイアウトを示し、説明会を改めて設定すること。
- 4、新しく発足する川崎運輸区及び鎌倉車両センター中原支所に配属となる社員に対する「新たなジョブローテーション実施」の考え方を示すこと。
- 5、川崎運輸区及び鎌倉車両センター中原支所の過半数代表者について考え方を示すこと。
- 6、南武線運輸関係基地再編成施策の面談は丁寧に行い、事前に意識付けを行い発令すること。

【川崎運輸区】

- 7、川崎運輸区の当直体制を示すこと。
- 8、川崎運輸区開業までに、全ての宿泊箇所及び折り返し箇所等に女性設備を整備すること。
- 9、現行使用している武蔵中原駅の乗務員詰所は、今後も使用できるようにすること。
- 10、夜間22時以降に鎌倉車両センター中原支所構内に入区する行路は、中原支所泊行路とすること。
- 11、鎌倉車両センター中原支所における泊行路の起床点呼等の考え方を示すこと。

【鎌倉車両センター中原支所】

- 12、改めて、鎌倉車両センター中原支所の考え方と業務内容を明らかにすること。
- 13、提案では、鎌倉車両センターとしての標準数となっていることから、鎌倉車両センター中原支所の要員体制を示すこと。なお、鎌倉車両センター中原支所の徹夜勤務は2名体制とすること。
- 14、主たる勤務地が鎌倉車両センター中原支所となる社員に対して、鎌倉車両センター中原支所への在勤地指定を行うこと。
- 15、鎌倉車両センター中原支所からの各派出への代務の考え方を示すこと。そして鎌倉車両センター本区との助勤のあり方を示すこと。
- 16、鎌倉車両センター中原支所での車両運用管理及び入場計画などの業務体制を具体的に示すこと。
- 17、川崎運輸区発足以降、旧中原電車区庁舎の改良工事計画について具体的に示すこと。



働きやすい川崎運輸区・鎌倉車両センター中原支所 にするために鋭意交渉していきます!